

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	基礎学力の充実に 向けたバランスの とれた教育課程を 編成するとともに 多様な生徒の進路 希望に対応する質 の高い学習指導に 取組み、生徒一人 ひとりの学習機会 の拡大を促進す る。	ICTの利活用を 推進し、60分授 業に対応した授 業内容・学習指 導方法を研究 し、生徒の基礎 学力向上を図 る。	教科ごとに研究内容を設定 し、研究授業を積極的に行な う。また、その成果をとりま とめ校内研修発表会を行な う。 60分授業に対応した時間割 編成・調整を行い、授業時間 数の均等化および学習時間の 確保を図る。	生徒及び教員を対象 にしたアンケートを とり、ICT利活用の 推進や60分授業によ って学習成果が上が ったか調査する。					
2 生徒指導・ 支援	①自転車マナーの 向上を積極的に進 め、交通安全に対 する取組みを組織 的に推 進する。 ②生徒の自主的・ 主体的な活動を支 援し、豊かな人間 性や社会性を培う 活動内容の充実を 図る	①登下校の自転 車利用における 交通安全指導を 徹底する。地域 と連携した交通 安全指導を推進 する。 ②生徒会活動・ 委員会活動・部 活動の活性化を 推進する。	①登校時の交通安全指導だけ ではなく、下校時も不定期に 危険な箇所立ち、交通規範 遵守の精神を養うとともに、 マナーアップを図る ②体育祭の所属チームに継続 性を持たせる。また、生徒会 と文化祭・体育祭の実行委員 会の連携を強化する。 部活動の加入率を上げる。途 中加入の機会を設ける。	①事故、及び近隣住 民からの指摘をゼロ にすることができた か。また生徒の自転 車運転規範遵守、マ ナーアップの意識の 向上が見られたか。 ②体育祭のチームで の練習が活性化した か。 部活動の加入率が上 がったか。					
3 進路指導・ 支援	社会的・職業的に 自立できる力の醸 成を図り、生徒一 人ひとりが主体的 に進路を考える姿 勢を育むキャリア 教育の充実を推進 する。	生徒の職業観・ 勤労観を育むキ ャリア教育プロ グラムを充実さ せ、生徒が主体 的に進路希望の 実現をめざすよ う指導する。	1学年では、調べ学習、講話 等により広く職業について学 習する。 2学年では、体験学習、説明 会等により職業観を養う。 3学年では、自己の進路実現 に向けた個別の活動を実践す る。	キャリア教育プログ ラムが計画通り実施 され、各学年とも生 徒が主体的に取り組ん だか。特に3学年で は、自己の進路実現 に向けたプログラム が展開されたか。					

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	PTAとの連携、地域、企業の教育力の活用などにより学校理解の促進を図るとともに、地域に開かれた地域とともにある安全・安心な学校づくりを進める。	①PTAと連携して、生徒が地域と交流・連携することで、生徒に協働することの大切さと地域の一員である自覚を持たせる。 ②本校の教育活動を積極的に家庭や地域に情報発信する。	①PTA活動において、生徒会や自治会等と連携し、地域夏祭りへの協力や地域貢献デーの清掃活動などの連携事業を計画・実施する。 ②鶴園小学校のPTA行事ドリームフェスティバルに参加する。 ICTを利用して広報活動、体験学習の更なる充実を図る。	①連携事業が実施できたか。また、具体的な成果はあったか。 ②ドリームフェスティバルへの生徒参加状況とHPでの広報を行う。 学校説明会でICTを効果的に利用し、本校のICT利活用授業実践推進を発信できたか。					
5	学校管理 学校運営	①生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化するとともに、地域と連携した災害時の体制整備を研究する。 ②教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む組織の育成を図る。	①生徒に災害時の行動等について考えさせる防災教育を行うことで防災意識を向上させる。 ②教職員のICT(イノベーション・チャレンジ・チームワーク)を推進する意識を高める。	①生徒会等の生徒を対象としたDIG研修を実施し、防災意識を向上させる。また、DIG研修等において、自治会等の地域との連携を計る。 ②学校業務についての教職員校内研修を定期的に行い、学校組織の理解を深めることで、組織的な業務改善を図る。また、学内グループウェアやGoogle Appsの利用を進め、情報共有やデータ移動の業務の効率化と負担の軽減を図る。	①DIG研修により生徒の意識は向上したか。また、地域との連携が実施できたか。 ②組織的な業務改善が行われたか。 学内グループウェアやGoogle Appsの利用が進み、情報共有やデータ移動の業務の効率化と負担の軽減がされたか。					